

ベネズエラの最新動向(9月16日~9月30日)

I. 政治・経済

1. 2008年1月のデノミを控え、2007年10月より新通貨による価格の併記が開始

- 2008年1月1日、ベネズエラでは通貨ボリバルの1,000分の1のデノミ実施が予定されている。これに伴い中銀は国内の価格表記につき2007年10月より、現在の単位(ボリバル:Bs.)及び新しい単位(ボリバル・フェルテ:Bs.F.)を併記するよう促している。
- ベネズエラ内外の識者は、本デノミは政治的な意味合いが強く、経済的な効果は期待出来ないと指摘している。

II. 石油その他の資源セクター

1. チャベス大統領が「天然ガス革命」を発表、180億ドルを投資し天然ガスの生産拡大を目指す

- 9月16日、チャベス大統領はベネズエラの天然ガスセクターに今後5年間で180億ドルを投資し、2012年までにベネズエラの天然ガス生産量を現在の4倍に相当する110億cf/d¹に拡大する計画(「天然ガス革命」)を発表した。
- 投資の対象はANACOガス田プロジェクト、CIGMA産業地帯開発等の合計10のプロジェクト。更に、大規模な輸送パイプライン及びLPGプラント等の建設が予定されている。
- ベネズエラは、ラ米第1位、世界第9位に相当する152.3兆cfの天然ガス埋蔵量を有している²が、国内各地で度々ガスの供給不足が問題となっている。

2. チャベス大統領が200億ドル規模の石油化学セクター向け投資計画を発表

- 9月23日、チャベス大統領はベネズエラの石油化学セクターを増強する大規模な投資計画を発表。今後5年間で200億ドルを投資し、石化セクターの売上を現在の170億ドルから1,000億ドルに拡大することを目指す。
- 同投資計画は、87件の新規プロジェクトがその内容となっている模様。この内35件は石化の原料生産、残る52件は肥料、プラスチック製造等の下流部門の開発。
- 本計画に伴い、今後5年間で70万人の雇用創出が見込まれる。これは現在のベネズエラの石油セクターの雇用者の約10倍に相当。
- チャベス大統領は計画実現に向けて、今後ブラジル、ロシア、イラン等に協力を求める考え。

¹ 2007年6月発表のBPの統計によると、2006年末現在のベネズエラの実生産量は28億cf/d。

² 同上のBP統計より。

3. OPECがベネズエラの生産枠引き下げを決定

- OPECは、2007年11月以降のベネズエラの原油生産枠を現行の322万b/dから247万b/dへ引き下げる決定を行った。9月中旬より新たな各国の生産枠リストを同ホームページで公開した³。
- 9月24日、ラミレス石油エネルギー大臣は同発表に対し、生産枠の引下げにはOPEC加盟国大臣レベルの決議が必要であるのに、今回はこの手続きがとられていない、と不満を表明。
- なお、10月2日以降、OPECはホームページ上の11月以降の各国の生産枠について、公開を取りやめている。

以上

³ OPECは9月11日の総会において、11月以降のOPEC加盟国全体の生産量を50万b/d引上げることを決定したが、その際ベネズエラの実績変更にかかる公式発表は行っていない。

本レポートは発表時の最新情報に基づいて作成されておりますが、情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、レポートの内容は今後予告なしに変更されることがあります。予めご了承下さい。